

学部

視野を広げた
豪州エコ体験

河野 亜紀さん

都合により
写真は掲載
いたしません

経済学科、奴田原健悟ゼミ、東京都戸山高高二井住友海上火災保険
挑戦する気持ちを大切に、やりたいことをやりきたった学生生活でした。中でも印象深いのが、豪州ウーロンゴン大学への

「北短」から編入
樹々の会で活動

上田 将さん

都合により
写真は掲載
いたしません

国際経済学科、新田滋ゼミ、東京都多摩大学自黒高IIストラパック
知的障がいを持つ子どもたちを支援するボランティア活動研究同好会「樹々の会」で活動しました。ゲームをしたり買い物に付き添ったり、子どもの希望にそって補助するのが役目。相手の気持ち

海外志向培った
ゼミと合気道

遠藤 裕大さん

都合により
写真は掲載
いたしません

国際経済学科、狐崎知己ゼミ、合気道部、茨城県石岡第一高IIマルカキカイ
海外で働く。気持ちが固まったのはゼミで学んだBOP(低所得層向け)ビジネスの現状を見に行ったインド一人旅です。新興国の活気と英語が刺激的で、次は得意の合気道で交流しようと思

経済、法、商
すべてを吸収

石田 亜耶さん

川島記念学術賞・二部経済学部総代・3面参照
4年間を振り返ってみると、非常に充実した日々であり、このような結果となったことで達成感と喜びを感じています。仕事と大学を両立できた

人助けのために
大切なのは勇氣

奈良 和紀さん

都合により
写真は掲載
いたしません

法律学科、佐島直子ゼミ(教養)、東京都柏江高II日本赤十字社
「多くの人を助ける仕事が出来たい」と、進路は日本赤十字社を選びました。赤十字の事業の中でも、特に救急法の講習会

片道2時間半
苦にはならず

吉江 夏美さん

政治学科、小林弘和ゼミ、栃木県宇都宮中央女子高II栃木県庁
父が栃木県の職員で、小さい頃から父のように大好きな県のために働きたいと思ってきました。専大を選んだのは公務員

勉学との両立
自らが手本に

京谷 勇人さん

都合により
写真は掲載
いたしません

政治学科、伊藤雄司ゼミ、アイスホッケー部、北海道北海高II北海道銀行
父がテレビ局勤務だったので、小2から3年間通学時間の長さは苦ではありません。1限には4時半起きで大変でしたが、電車の中で眠ったり文章をまとめたり。時間

第2の職場」で
道はまだ半ば

細谷 芳明さん

川島記念学術賞・二部法学部総代・3面参照
終生現役たることを心に誓い、社会的に弱い立場の人のため、再び社会貢献を果たすべく定年後に専大で法学を修めよう

悔しさバネに
チーム支えた

畠野 秀朗さん

都合により
写真は掲載
いたしません

経営学科、加藤茂夫ゼミ、野球部、新潟県中越高IIブルボン
中越高校時代は野球部でレギュラーの二塁手。進学後はさらに高い目標を掲げ「戦国・東大」

志望の企業に
ゼミで鍛えられ

渡部 佐和子さん

経営学科、福原康司ゼミ、愛媛県今治明德高IIバンダイ
「質問の意図がわからぬ」「その説明の根拠は」が福原先生の口癖。最初の頃は調べた内容を

森本先生、ゼミ
仲間「感謝」

李 牧さん

都合により
写真は掲載
いたしません

経営学科、森本祥一ゼミ、中国・北京工業大学付属高、中国留学生会II専修大学大学院経営学研究所修士課程
ゼミ指導の森本祥一准教授(情報システム)との出会いにより、「IC(T(情報通信技術)と「駅ナカ」を活用したソリューション)ビジネスの問題解決」という研究テーマが

試験をプラスに
「平昌」目指す

清水 亜久里さん

川島記念学術賞総代・3面参照
ノルディックスキー複合の魅力は、ジャンプの爽快感とクロスカントリを兼ねたあとの達成感。まさに「キング・オブ・スキー」です。

卒業生・修了生思い出
インタビュー

＊氏名に続いて学科、所属ゼミ、プロジェクト、所属部サークル、出身校、進路など

大学生生活は勉強に追われながらも、好きなことに挑戦できる時期です。就職活動やゼミ活動などを通して、さまざまな経験を積み重ねることができました。「多くの人を助ける仕事が出来たい」と、進路は日本赤十字社を選びました。赤十字の事業の中でも、特に救急法の講習会

「第2の職場」で道はまだ半ば
川島記念学術賞・二部法学部総代・3面参照
終生現役たることを心に誓い、社会的に弱い立場の人のため、再び社会貢献を果たすべく定年後に専大で法学を修めよう

た。玩具メーカーで女の子に夢を持たせる商品を開発するのが希望ですが、どんな部署でもどんな状況でも楽しむつもりです。決まりました。在学中に大学院経営学研究所修士課程の特修プログラム生になったこと、2万5000字の論文を何度も書き直して完成させたこと、神奈川産学チャレンジプログラムに参加しチームで優秀賞をいただいたこと。いずれも森本先生のご指導のおかげです。ゼミで留学生は私一人。仲間たちが中国に興味をもって接してくれたのもうれいこと。「感謝」(ありがと)です。日本の文化が好きで来日して7年。学んだ知識を生かし、就職も必ず日本にチャレンジします。自分の甘さを思い知ったと同時に、その試験をプラスに変えたことで次のシーズンの冬季ユニバーシアード連覇につながったと思います。専大に進学してよかったのは、自分と向き合う時間が持てたこと。家族の存在も大きいですね。現役ジャンプ選手の父(久之さんII昭58経営、弟・礼留飛(ソチ五輪銅メダリスト)、そしていつも寛大に温かく見守ってくれた祖父(千久さん・2年前に急死)に。絆を支えられ4年後の平昌五輪を目指します。

専大で育んだ力を糧に

卒業生・修了生思い出
インタビュー